

## (1) 研究課題名 中高年期の精神障害者の希望する日中活動系障害福祉サービス体系とは

石田賢哉(青森県立保健大学 社会福祉学科)

### 研究の背景

一般就労につくことが難しい精神障害者の多くは、日中活動系の障害福祉サービスを継続的に利用しながら地域で安定した生活を送っている。中高年の利用者の多くは利用期間が長期化している。今後、利用者の高齢化に伴い、障害者福祉制度から介護保険制度を利用することも予想される。制度的な課題を明らかにするとともに、利用者本人が望む生活支援システムについて考える段階にきている。

### 研究目的

日中活動系の障害福祉サービスを継続的に利用している精神障害者(以下、利用者)で、一般就労につくことが難しい利用者に焦点を当て(症状は安定しているものの作業所等の利用期間が長い中高年層、概ね40歳代以上)、①利用者の現在の生活状況及び支援状況、②今後の生活意向・見通し(何をしたいか、どこでどのような生活をしたいか)、③現在利用しているサービスの利用満足度、主観的QOLおよびリカバリーを明らかにすることである。

### 研究方法

#### 1. 利用者に対するアンケート調査

横浜市精神障がい者地域生活支援連合会(横浜市精連)に加盟する事業所利用者を対象に、無記名自記式質問紙調査法にて調査を実施(約500名)の協力が得られた。主な調査内容は、日常生活の不安の有無、属性、事業所利用満足、主観的QOLおよびリカバリーアセスメントに関する項目

#### 2. 利用者に対するインタビュー調査

日中活動系障害福祉サービスの利用者5~7人程度を1グループとして5グループに対して生活不安を中心にインタビュー調査を実施

### 得られる成果

中高年精神障害者に関する生活実態等を分析することで、現在の制度上の課題(フォーマルサービス利用の課題)、相談支援専門員と介護支援専門員の連携の課題などが抽出されると考えている。成功事例の分析を通して、中高年精神障害者に対するシームレスな生活支援システムの提案が可能になると考えている。